



ともしび

『この一年を顧みて』

城北地区社会福祉協議会

会長 細谷 達 則

城北地区社会福祉協議会が発足してから、1年の歳月がたちました。

皆様方のご協力によりまして、順調に会の運営ができていますと思っています。

この1年の間に、福祉活動を具体的に体験され、また研修会等で勉強を重ねる中で、「福祉推進委員」の皆さんは、地域の方たちに何をしたらよいか、またどんな事を望んでいるのかを、それなりに考えるようになって来たと思います。

また地域の方も、「地区社協」の存在を、市の広報や「ともしび」などで、自分たちにも身近にある会であるとの認識をするようになってきました。

高齢化社会における老人福祉の問題だけでなく、青少年の健全育成もまた同じで、掛声だけに終わることのないよう、一つ一つの小さな事からでも、実行して行くことこそ必要であると考えます。

そこで、城北地区として、簡単な事ではあるが、なかなか実行のできていない『一言の挨拶運動』を展開していきたいと存じます。向う三軒両隣りだけでなく、町内の人全体でお互いに挨拶をかわし合い、明るい街づくりをしようではありませんか。

『今日は』『お元気ですか』『どちらへ…』その一言が、次には『こんな事してもらえないかしらん』『困っている事ありませんか』と挨拶の内容も発展していくでしょう。

1年間を顧みて、とにかく『福祉活動』はみんなの手で、みんなが手を取り合っ、お互いに助け合う心が生まれてこそ、完全なものに近づいていけるのだと感じています。

その為の第一歩としての『挨拶運動』です。是非、ご協力とご努力をお願いする次第です。

一人暮らし高齢者の集い

城北校区老人クラブ連合会 女性部会 山崎 スミ子

城北校区老人クラブ連合会女性部会が受持つ行事の一つをお知らせいたします。

校区老人クラブ会員は560名余、内70才を超える一人暮らし会員は95名、毎年1回集合して楽しい一時をすごしております。

校区内で全員集合出来る会場がありません。経費等も考え合わせて、3回に分けて妙見宮社務所をお借りしております。多目的に集合出来る校区内公民館が、一日も早く建設出来ます事をみんなで願っております。

経費については、丸亀市から頂いた友愛訪問活動配分金並びに11人のクラブ長及びお世話する女性部員からのカンパを充当します。

接待いたす内容は幕の内弁当、飲物、おやつ等、大勢で話し合いながらいただく昼食は、とても美味しく楽しいものです。

食事が終わりましたところでしばらくの時間、詩吟や民謡等、のど自慢を披露します。紅白の組に分かれてゲームを始めます。最初にゲームのルールを発表してありますが、守ることは出来ませんでした。スプーンに入れたボール運び、片手使いが、いつのまにか両手使いになり、大声をあげて笑い興じる姿は、久しぶりの発声運動だと思いました。

賞品をお渡しした後、誰もが知っている昔の唄で、籠の鳥や船頭小唄を合唱してお別れいたしました。皆さんとても喜んでおられました。

城北地区社協福祉部会が年間行事計画を立てておられます一人暮らし老人友愛訪問の誕生月花鉢プレゼント、年間三回のお弁当配り、おはぎ持参慰問など、物質面の福祉サービスと心のふれ合う福祉サービスの両面を勘案しあいながら、老人福祉の向上につとめたいと考えます。地域住民の皆さま方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

向う三軒両隣り

福祉推進委員 山地 健治

古い言葉だが生きていた。町内のT子さん(82才)。10年程前から白内障で4・5年程は殆ど手探りの生活。買物は近所の人をついでに依頼。室内は手探りでチリ一つ落ちていない几帳面な性格。平成5年1月9日、階段の3段目から転げ落ちる。腰を強かに打つ。その時は動けた。だんだんと腰が痛くなる。下着、ティッシュ、電話器そして水差しを一杯にして枕元にかき集めて動けなくなった。

それから3日目。近所の人には気になり、戸をたたいて呼んだが返答なし。出入りしていた若い衆の家へ電話が掛かった。弱い声で「助けて」。彼もとんで来た。誰かが民生委員へ連絡。委員と相談して鍵を壊す。半脱水状態。とにかく水。汚れ物はビニール袋につめこんである。目は半分虚ろ。119番。民生委員が付き添う。女性群は入院用品を整えて掃除。入院先が分かったので用品を持参。骨折はなし打身のみと聞き、とって返し報告。皆一安心。

それから週2回、洗濯物、必需品の差し入れ。2か月余で眼の手術も受け、4月末、家へ連れて帰る。彼女一言「ここはどこな!」。

現在週3回ヘルパー来訪と近所の人達の声かけ。町内はお年寄りが増えている。明日は我が身。お互い声かけ合って元気に長生きしましょう。

「子ども」から「地域」へ

御供所町子ども会育成会 会長 土居 祥治

私たちの子ども会では、毎年2月の第1日曜日にもちつき大会を行います。この日は、地域青年会の若葉会からも強力な応援をいただき、子ども数の何倍ものもちをつきます。そして自治会を通じ70歳以上のお年寄りに、長寿を祈って紅白のもちを配ります。毎年の恒例行事となり、当初の意義も忘れ去られがちですが、「地域の中での子ども」という意識が希薄になっている昨今、私はこの行事に、ひいては子ども会の活動に、もっと別の意義を見つけたいと思うのです。

顔見知り同士が道ですれ違う折り、どちらからともなく声を掛け合うことが、なにごとか意味あることであると同じように、子ども会を通じて子どもたちには、学校社会とは別の、老若男女が交じりあう地域社会というものの意味に、ぜひ触れてみてほしいと思うのです。地域から子どもへという、おとなの側からの一方通行だけではなく、子どももおとなに無関心でいられないような、子どもから地域へという子どもの側の視点ができあがって初めて、円滑で豊かな地域社会が実現するでしょう。お世話になりっぱなしのレジャー子ども会が、どのように脱皮していけばいいのか、課題は山積みしています。

こんにちは、お元気ですか

福祉推進委員 福岡 俊子

平成5年の10月頃でしたか、福祉推進委員制度創設の説明会が、富士見町自治会館にてありました。社会福祉協議会の方から初めて制度の内容、推進委員の役割と活動についてくわしい説明がありました。

あまりにも責任の重い内容に、これは大変な役目だし、果たして私に出来るだろうかと自問自答せずには居られませんでした。

11月27日に委嘱状を手渡されたものの何から始めたらいいのか、具体的に何をすればいいのかが見つからぬ焦りと反省の中で、ただ月日だけが流れていきました。

矢張りプライバシーの問題もあって、やたら訪問したり声をかける訳にもゆきません。

そんな或る日、わたし担当の独居の方とばったり出会った時「家の中で転んで足を捻挫したのか痛くて動けず、電話の所まで這う事さえ出来なかった。隣の人が帰って来て病院へ連れて行ってもらった」と話されました。長い時間を一人でどんなに不安な思いをされたかと胸が痛くなりました。

プライバシーを尊重するのも大切です。だけどもっと積極的に訪問するなどの行動をとっていたら、早く手当てが出来ていたのにと悔やまれました。

後日おはぎをお配りした時は、個々の方達とゆっくりお話しして「推進委員」の役割分担等をくわしく説明し理解して頂けました。

独居の皆様方はしっかりと自立しています。けれど福祉の制度をもっと活用して快適な老後を送って頂けたらと感じました。

老人ホーム「珠光園」への訪問見学の折には、車椅子からベッドへ移動させるときの介助の仕方を体験させて頂きましたが、実際には一度ぐらいの体験では役には立ちません。

地区の公民館を拠点として、様々な研修やふれあいの行事など多く欲しいものです。

何か少しでも良くなってゆくお手伝いが任期の間に出来れば幸いです。

“幼い時からお年寄りとふれ合う機会を”

丸亀市立城北幼稚園長 草 薙 貞 子

平成7年度の国連のテーマは寛容年です。心が広くて、人を受け入れると云うことだと思えます。大人や子ども、若者や高齢者が互いにいたわり、支え合って生きていく、そして世界平和を築いていこうとするものです。先般の阪神大震災から多くの教訓や話題が浮かんできました。特に若者のボランティア活動ですが、この人の役に立つ喜びの精神は自分の意志で始める時期は4～5年生になってからですが、その動機となる他人を思いやる気持ちを育むことは、早い幼児の時からそうした環境を作ることが大切です。

本園での二世帯家族は20%で、同居している子ども達は、やさしい祖父母が大好きです。以下園でのお年寄りとのかかわりについて述べたいと思います。

◎9月15日の地区での敬老会には平山保育所と交替で参加し、一緒に歌ったり演奏等を披露する。

◎園のクリスマス行事の発表会には祖父母をお招きし、一緒におうどん会食を楽しんだり、平成6年度はひなまつり茶会にお招きし、琴の音の流れる中、和服姿のお姉さんのお手前を拝見したり、先生から抹茶と菓子の頂き方を学ぶ。年長児が祖父母に菓子や抹茶のお運びをする等大変うれしい一時だったと喜ばれた。後、各部屋で孫と祖父母のふれ合いの時間を過ごした。

◎近くのお年寄りを訪ねる。

東汐入公園の自然にふれ、運動あそびのコーナーで自分の体力に挑戦した後、折紙で作ったプレゼントをポケットに独居のおばあさんを訪ねる。“年寄りになって悪い所が一杯あって困ります。きてくれてありがとう”と子どもたちからの切り紙や折紙を手にお礼のことば。もう一人、酒屋のおばあさんを訪ねる。“お年はいくつですか”“86歳”と、お店の客で隣に居た老人が私18歳とおもしろく云って笑わせる。折紙のパクパク(両親指と人指指を入れ開閉)を手にしたおばあさん、後で練習しとくから…と。お家の方から思わぬプレゼントを頂く。

◎園児と話し合う。私の実家の母が腰やすねが痛くて歩きにくくなったので時々見舞いに行く話から、A児は私が小さかった時元気だったが今は入院しているのでみんなで見舞いに行く。B児は祖父母がお小遣いくれる等の話から、なぜか犬猫が居る話へ。そして小動物へのいたわりに象徴されるような生命の尊重へと進んだ。そこでM男が話題となる。M男は怪我をした猫や犬を目にすると母に病院へ連れて行くよう依頼する。そして家で母と一緒に注射器でミルクを飲ませる等世話した動物は数えきれない程。現在猫3匹、犬2匹がいて家が手狭になったと聞く。羽根を怪我した鳩を栗林動物園まで運んだとも聞く。病院の先生が“又これも飼うんな?”と話されたそう。まねのできない家族に感動し、声援を送りたい。

